
超弩級超絶学園

郡司侑輝

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

超弩級超絶学園

【Z-ONE】

Z3966 X

【作者名】

郡司侑輝

【あらすじ】

ある意味凄い学園がそこにあった。その名も超弩級超絶学園。暴れたり学んだりウェイウェイしたり……

設定（前書き）

設定のしきもんです

設定

舞台設定

とある世界。そこにはあらゆる世界から集められた生徒を一人前の
人間に育てる学園があった。

その名も【超弩級超絶学園】。

教職員

校長・本郷 猛	教頭・一文字 隼	国語現代文・剣崎 一真	数学・五代 雄介	英語・門矢 士	地理世界史・火野 映司	保健体育・光 夏海（保健）	科学生物学・乾 巧	家庭科・津上 翔一	道徳・左 翔太郎	情報・城戸 真司	日本史・天道 総司
---------	----------	-------------	----------	---------	-------------	---------------	-----------	-----------	----------	----------	-----------

古文・野上 良太郎

音楽・紅 渡

主な生徒

ユウト

本作の主人公。ツツコミ。茶髪でボサボサ。目は鋭い方。料理は覚えればレパートリーが増える程で応用が利きやすい。頭の出来は良い方である。イメージCVは保志総一朗さん。口が悪く、ツツコミが下手な人物には厳しい口で言い下す。けれども心は優しい男。

相棒は首から下げるエンシェント。かのエンシェントドラゴンから取れた素材で出来た大剣。ペンダント状態のセーブモード、大剣状態のバトルモードに分けられる。

因みにプラネットユース出身。好きなゲームはパズルゲーム。

エンシェント

エンシェントドラゴンから取れた素材で出来た大剣。喋る事は出来、ユウトが触った物は彼も感じられる。所謂ひぐらしで言う羽入の様な感じ。

巨乳大好きでユウトから飽きられたり軽い絶滅タイムが下される事もしばしば。イメージCVは石田彰さん。ユウトの相棒。

ランスロッド

ルゥイーで開発された魔法機人。女好き。イメージCVは置鮎龍太

郎さん。

好きな物は女（特にロリと貧乳。一番大好きなのはロムとラム）で嫌いな物は男（男の娘は別）である。

ロムとラムの良い教育係。だが下心丸出しでプランに半殺しにされる。

身長は2m程あり、ロムとラムの様々な要望に答えられるように開発されたため、モードチェンジが可能。ポニー モード、おえかきせんせー モード、ボード モード等にも変形出来るが、その際体積以下に変形する場合があるが、本人曰く「残りはロム様とラム様の心中に」と言つてゐる。

体によくロムとラムに落書きされるが、逆に本人は喜んでいるそうだ。買い物は出来るが、幼女の為ならばとことん商品を値切りに値切る為、店は大赤字。

目は单眼でそれで見詰められると、妥協するしか無いといつ。

登場作品

- 【超次元ゲームネプテューヌmk2】 【オールライダーシリーズ】
- 【スマブラX】 【そらのおとしもの】 【ガンダムシリーズ】 その他

本編へ！

設定（後書き）

次回第一話

うえい
1

ついでに「学園モノって書いたら、まあ出世しないのか?」と云ふ

第一話です

「ラブストーリー」の世の総ての女の娘に感謝を込めて……頂きます!!」

毎回毎回前書きにて、登場キャラの声ネタ中の人ネタを行います
ので

「ついでに、『学園モノ』って書いたら、まあ出世しないのか?」 ボク

超警級超絶学園。

その校舎に向かうべく、一人の男が走っていた。

「コウト、やつべ、急がねえと遅刻する……！」

エンシントンと全く。だからあれ程、寝る前に巨乳のお姉様方の写真集を読めと言ったるに

「コウト、ガチで棄てるぞこの野郎……！」

軽一くエンシントン・セーブモードを睨みつけ、超警級超絶学園へと急いだ。

「コウト、間に合つた……！」

途中、殺人チョップやセクハラや「狙い撃つぜ」やハロー や「ねぶー」や「うえい」や色々な物へと突つ込みながら、コウトはギリギリ到着。席に座ると同時にうなだれる。

エンシントンと全く。君も智樹の様にひたすら巨乳を、痛い痛い。痛いですコウトさん、ごめんなさい調子乗りすぎましたからその握つてゐる手を離して下れ……！……！」

士「出席取るぞー、ひとつと席に座れーー！」

コウトのクラスの担任である門矢士は写真以外なら何でも出来る男で少しナルシスト。またの名を仮面ライダー・ディケイド。士が教室に入ると同時に、クラスの生徒は一斉に席に座る。

士「まづは、小野寺コウスケ！」

コウスケ「はい！」

リイマジクウガの小野寺コウスケ。コウトとはいい仲でいい突っ込み仲間。

士「芦河ショウウイチ、西口シンジ」

ショウウイチ「おひ」

芦河ショウウイチはリイマジ龍騎。ジャーナリスト。

シンジ「はー」

辰巳シンジはリイマジ龍騎。ジャーナリスト。

士「尾上タクミ、友田由里、剣立カズマ」

タクミ「はー」

リイマジファイズの尾上タクミ。写真部に所属しており、副部長。

由里「はー」

[写真部部長友田由里。タクミの彼女。

カズマ「はいはーい！」

ブレイドのリイマジの剣立カズマ。料理部副部長。

士「アスマ、ワタル」

アスマ「はい」

響鬼のリイマジの日高アスマ。

ワタル「はい」

リイマジキバの紅月ワタル。

士「続いて、桜井智樹、見月そはら、守形英四郎、五月田根美香子」

智樹「ほい」

桜井智樹はセクハラの魔王。そのかわり、痛い目に遭うが本人は懲りない御様子。勉強はダメダメな奴。コウトと友達。

そはら「はい！」

見月そはらは智樹の幼なじみ。巨乳。得意技は殺人チョップだ。因みに金づち。

英四郎「はい」

守形英四郎はある意味変態。新大陸発見部部長。その中に智樹の他、そはら、コウト、コウスケ等がいる。

美香子「はーい」

五月田根美香子。実家は任侠道。セレク銃刀の扱いは慣れている。自らを会長と呼び、この学園の生徒会長だ。

士「更に続けて、キラ・ヤマト、アスラン・ザラ」

キラ「はーい！」

キラ・ヤマトはスーパー・コードィネーター。努力家で学力は上位。アスランとは幼なじみでコウトの友達。同じく強制的に新大陸発見部に入部させられた。

アスラン「はーい！」

コードィネーター。学力は常に上位。キラとは幼なじみ。

士「ラクス・クライン、カガリ・コラ・アスハ」

ラクス「はーい」

ラクス・クラインは学園一の美声を持ち合唱部。キラ・ヤマトの彼オ女。ンナ料理部部員。ネプテューヌの親友。

カガリ「ああ」

カガリ・ユラ・アスハ。キラの姉だか妹だか分からぬが、本人は「あいつ（キラ）が弟だ！」と言い張るので無理矢理姉の立場にいる。

士「更に更に続けて、刹那・F・セイエイ、ニール・ディランティ、ライル・ディランティ、アレルヤ・ハプティズム、ティエリア・アーテ」

刹那「ああ」

刹那・F・セイエイ、極度のガンダム大好き野郎。御歳21歳。

ニール「おう」

ディランティ双子の兄貴。ユニーの射撃の師匠。御歳29歳。

ライル「おう！」

ディランティ双子の弟。御歳29歳。

アレルヤ「はい」

アレルヤ・ハプティズム、自分の中にもう一つの人格が存在するが、それはまた別の時に。御歳26歳。

ティエリア「はい」

ティエリア・アーテ、規律と校律に厳しい。年齢不詳。イノベイド。

士「フェルト・グレイス、アニュー・リターナー、マリー・パーク

アシ一

フェルト「はい」

フェルト・グレイスは料理部部員。御歳19歳。刹那の彼女。

アニユー「はい」

アニユー・リターナーはティエリアと同じイノベイドであり、ライルの彼女。

マリー「はい！」

マリー・パークナーはある意味アレルヤの幼なじみ的人物。
26歳でアレルヤの彼女。

士「そんでもって、ユウト、ランスロット」

ユウト「はい」

ランスロット「うむ」

士「ネプテューヌ、ブラン、ノワール、ベール」

ネプテューヌ「はいはーい！」

ネプテューヌは一言で言えばおバカでちやらんぽらん。料理洗濯掃除がダメ。ラクスの親友。プラネテューヌの女神。

ブラン「……はい」

プランは四女神の中で背もむちつこい。胸も無い。が、キレると手が付けられない。本の虫。ルウェイーの女神。

ノワール「いるわ」

ノワールは四女神の中で一番目に胸がでかい…らしい。仕事と勉強は出来る方。ラステイションの女神。

ベール「はい」

ベールは四女神の中で一番胸がでかい。ネトゲでは廃人の域にあり、一度に三つのパソコンを使用しネトゲをするほど。因みに腐女子。リーンボックスの女神。

士「アイエフ、コンパ、日本一、がすと、500」

アイエフ「はい」

アイエフ、ネプテューヌのいい突っ込み役。プラネットューヌ出身。

コンパ「はいです」

コンパ、医者の見習い。誰に対しても敬語。プラネットューヌ出身。

日本一「はいはいはーいー！」

日本一、自称正義のヒーロー。ヒーローに憧れているのか、しおつちゅう本郷校長の変身ポーズを真似る。胸は無い。ラステイション出身。

がすと「はいですの」

がすと、凄腕の鍊金術師らしい。見た目とは裏腹に金にがめつく毒舌。幼女体型。ルウイー出身。

5pb「はーい」

5pb、巷で有名なアイドル。リーンボックス出身。一人称はボク
な僕つ娘。何故か分からないうが、仮面ライダー轟鬼じとうねに変身できる音
錠を左腕に巻いている。

士「次に、ネプギア、ユニー、ロムとラム」

ネプギア「はい！」

ネプギアはネプテューヌの妹。家事は姉より出来るが、女神化した
ときの姉の強さと通常時の殻を破る性格に憧れを抱く。刹那の妹分。
プラネットユース出身なのは当たり前。女神候補生。

ユニー「いるわ！」

ユニーはノワールの妹。いつも姉を目指として一日一日を一生懸命に
過ごしている。ライルの弟子で、ニールとの違いが分かる。ラステ
イション出身の女神候補生。

ラム「いるよー！」

ロム「……いるよ」

ブランの妹のロムとラム。双子でロムが姉、ラムが妹なのだが、どちらが姉か分からぬ。物静かなロムと違い、ラムは活発。ブランに悪戯したりしている。ランスロット大好き。ルウェイーの女神候補生。

士「そして、マリオ、リンク、ピカチュウ、カービィ」

マリオ「おう」

Mr. nintendo。赤い髪親父と言えば分かりやすい。キノコ大好き。キノコタウン出身。

リンク「はい」

ユウトの友達。緑系の服を好んで着る。勇気のトライフォースの継承者。ハイラル出身。

ピカチュウ「ピッカア！」

クラスのマスコット的存在のピカチュウはカントー地方出身。別名電気ネズミ。女神候補生の四人に結構人気。人懐っこくユウトにも懐く。

カービィ「ハアイ！」

別名悪魔の食欲を持つピンクボール。けれども女神四人には結構人気。理由はクッショーンにされやすいとか。ポップスターのップブランド出身。

士「よし、全員揃っているな。それでは授業を開始するぞー！」

時は進み放課後。

部活動の時間となるのだが、ユウトの所属する新大陸発見部は狭い部室に、英四郎の他、ユウト、智樹、ユウスケ、キラ、そはらそして美香子が居た。

きついと言えばきついが、それでも文句は言つてられない。

英四郎「よし、全員揃つたな」

ユウト「で、今日は何するんだ？」

エンショント「その前にそはら、ユウトにお前の胸を揉ませてやれ
！」

ユウト「はい、黙つてよくな。次言つたら棄てるぞガチで」

ユウスケ「何するんだ？」

英四郎「何、今日は少し趣向を変えてだな」

ユウト「それ以前にお前が趣向を変えたり凝らしたりするパターン
が全然無い。いつものように俺か智樹が実験台になるほか無いだろ」

智樹「えええ！まじっすか先輩！！」

すると英四郎は眼鏡をクイッと直し、ユウスケに視線を向けた。

英四郎「今回の実験は……」

コウト「やつぱり実験だつたんだなこの野郎」

英四郎「強度を増し、更に軽量化に成功したハンググライダーにコウスケがテストフライを行つ」

ユウスケ「ええつ、俺！？」

美香子「あらあ～、あなたある意味不死身つていうじゃない？」

キラ「コウト、もう英四郎君も会長もダメダメだね」

コウト「意のなキラ。逆に悲しくなるわい」

そして場所は変わり、屋上。既に本郷校長の許可は下つており、校庭には見物客の他弁当売りのシンジとカズマが居た。

勿論この二人にはコウトがちゃんと突っ込み、退場させた。

ユウト「頑張れよ、ユウスケー！」

ワタル「ユウスケー！死なないでくださいーーー！」

智樹「（何でだらう。トラブル臭がブンブンする）」

コウトは応援し、ワタルは氣をつけるとばかりに言い、智樹は既に嫌な予感がしていた。彼が言うに、デジヤヴュ感が多過ぎるとのこと。

観客以外にも、空を飛ぶことが可能なパー・ブルハート、パー・ブルシ

スター等の四女神に女神候補生が空中で待機している。これに関しては教頭命令。

パープルハート「まつたく……英四郎も馬鹿な事を毎回毎回。やつてくれるわね」

パープルスター「直接本人に言わないとダメだよね、お姉ちゃん」
屋上に戻すと、既にユウスケは腹を括つており、心なしか涙を流していた。当然だ、ハンググライダー等初めてでこれを飛ばすのは正気の沙汰ではない。

英四郎の合図でユウスケは滑空を開始した。

始めは順調に浮かんだが、一瞬空気が乾いた様な音が聞こえ、ハンググライダーの布地に穴が空いてしまい、バランスを崩して藻が浮かんでいる外プールに落ちてしまった。

二ール「ふう……弟子に苦労かけた罰だ」

ユウト「お前かよ！？いい年こいて、恥ずかしく無いのか、アンタはー！」

ユウト「あー、疲れたあ」

ユウスケ落下事件（ネプテューヌ命名）によって新大陸発見部は暫く活動休止となつた。理由は簡単。藻が浮かんでいる外プールにユウスケが落下し、そのプールの底にヒビが入ってしまい英四郎は修繕するしかなかつた。

因みに、二ールの射撃はサイレンサーを使用していたためなのか、

不問となつた。

暫く部活はやらないようだから、コウトはまつすぐ帰宅していた。夕飯はミートソースパスタと鮭のムニエル。食べはじめる前に、コウトはコンショントを首から外し黙々とパスタを食べる。

コンショントへ前から思つたんだが……

コウト「セクハラ発言すんなら外に投げるぞ」

コンショントへ違つからー……私が言いたいのは、日本家屋でパスタを食つつかって言つことだ

コウト「フランスの貴族の豪邸で焼き魚定食食つとの変わらない。つていう意味か？」

コンショントへまあ、そつなんだがな……

コウト「別にいいだる。一日の消費カロリーに応じてその日の夕食は決まるんだ。……親父からそう教わつてゐる。死んだ親父からな……」

コンショントへコウト……お前本当は……

コウト「嘘つたな。言つたら本気で……」

ピンポーン

シン//コとした空氣の中、コウトの家のインター ホンが鳴つた。今は午後7時位だろう、こんな時間に来客とは珍しい。誰だらうと思つたコウトは玄関まで行き、戸を開けた。

תְּבִ�ָה

「ランスロット」「ロム様とラム様を何処に連れ去つたああああーーー！」

「ウタ 知るかボケ」と云ふ。」

魔法機人ランスロットという来客は開口一番口ムとラムをコウトが誘拐した様な喋り方で言った。

「…」

ランスロッテー貴様あああ！可憐なロム様とリム様を何処にやつた
と聞いているーー！」

ユウト「知らねえっての！！」

「ransport! 問答無用！必殺
” 真空突破
” ああああああ！！！」

エウトー 最初から俺を犯人だと決め付けるな!!!! 必殺” ハラーン
スラッシュュ” !!! 「

ランス日^ハの理不^ハを載せた技と^ハアの突^ハ込みを込めた技が
ぶつか^ハ。

因みに、今技をふつけた場所はコウトの家の真ん前の道路であり、奇跡的に通行人はいなかつた。

「もう止めろ、勝負は決まっている」

ランスロット「まだ私は、負けた訳では……ないっ！」

那ランスロットのランスと俺のハンシェントの刃がぶつかる。その刹

ラム「ヤツホー、ランスロットおー。」

口ムシ……お迎えに、来たよ」「

口ムとラムが現れ、ランスと刃ばぶつからず、寸前で止まつた。

ランスロット「ロム様ラム様、今まで何処に！」

「…………あのね、ネプギアちゃんの所に行つてきたの」

ラムー「うふうん。とにかく、ランスロットは何してたの?」

「ウカト」あー、ちせんばら……だよな、ランスロット」

ランスロット「う、……うむ。いい修行となりました。せ、ブラン様が心配しております帰りましょう」

口△「...うん」

ラム「ゼニゼー、ガウトー！」

「ユウト、はい、ぱいぱい。…………そういえば、飯途中だったな」

エンシントをセーブモードにしたユウトは家に入り、飯を食いつの
だつた。

続く

「学園モノで忙つたが、お立派じゃな」のか?」 おなじく

次回

ニユースキヤスター＜大ショッカーが犯罪神四天王の復活に成功し、侵略を開始しました＞

本郷「行くぞ、みんな！」

次回

うえい2 「俺の平和な日常を返せエエエエエエエエ！」 b y智樹

ついで2 「俺の平和な日常を返せHHHHH...」 by 香樹（前書き）

第一話です

「ウト「魂キヤノン...」」

今回、意外な展開がラストに

ついで 「俺の平和な日常を返せHNHNHN……！」 by 香樹

きーん」「ーんかーん」「ーん！

仁志「よし、4時間目終了。次の体育は、剣道を行つぞー！」

リンク「有り難うございましたー！」

残り『有り難うございましたー』

4時間目の体育の授業が終り、更衣室で着替え食堂へ行く超弩級超絶学園の生徒たち。

その内、ネプテューヌは我先にと廊下を走りに走り、途中歩いていた野上良太郎をぶつ飛ばした。

良太郎「およよーーー！」

ネプテューヌにぶつかったばかりに吹っ飛ばされ、遙か彼方に飛ばされる良太郎だった。

アイエフ「毎度ながら、野上先生不幸体質よね」

コンパ「それが野上先生です」

コウト「つていうかその前にネプテューヌに突っ込めよ、おい！」

智樹は窓の外を見ながら、豚の生姜焼定食を今日も平和だと思いながら噛み締めていた。

智樹「いやあ、今日も平和ですか～…」

そはら「トモちやんの言つ通りだよね。ネプテューヌさん達女神様が居るから安泰かもね」

智樹「そーそー、これで平和をぶち壊す事件が起きなけりや、いいんだけどな」

ユウト「その前に、そろそろテストあるから覚悟したほうがいいぞ。あんたら一人コンパより低いからよ、点数」

智樹&そはら「はい、すいません。頑張ります」

ユウトに言われた二人はうなだれ、言った。

言った本人のユウトはと黙り、テレビ画面に目を向けていた。バラエティー番組の様だが、突然緊急ニュース速報に変わった。

ニュースキャスターへ緊急ニュースです！>

智樹「……」

テレビ画面のキャスターが言うと、智樹の背後にあった平和という文字がパズルのピースの様にバラバラに散った。

悪い予感が、でなくてもいい予感が、今起きたのだ。

ニュースキャスター「大ショッカーが犯罪神四天王の復活に成功し、侵略を開始しました」

ユニー「そんな……」

ラム「あーーまたあの変態と戦わなきゃならないのーー!?」

ロム「……怖い」（ブルブル）

ネプギア「復活って、……どうして」

女神候補生の四人を始め、四女神達にアイエフ達も苦虫をかみつぶした様な表情になつた。

そこに「大体分かった」と言いながら、士はテレビを消しネプギア達に向かつて言った。

士「大ショッカー程の科学力は、馬鹿にならないからな。科学者である死神博士の手に掛かれば犯罪神マジエコンヌは無理でも、四天王なら造作も無い」

夏海「ですが士君ーおじいちゃんはそこに居るじゃ無いですか！厨房に」

士の考えを否定するかのように言った。

因みに夏海の祖父栄次郎はこの学園の厨房のオーナー兼シェフを本郷の推薦で任せられている。

士「俺が言つているのは、爺さんじゃない方の死神博士だ。そうだろ、本郷校長」

士が言うと、食堂のドアが開く。そこから現れたのは、木の枝が体

中に付いている良太郎を背負つた本郷校長が現れる。

本郷は良太郎（気絶中）を椅子に座らせ、生徒たちに指示を下す。

本郷「超弩級超絶学園の生徒全員よ、俺の話を聞け。今犯罪神四天王が復活してしまっては、犯罪神マジエコンヌの復活も起こつてしまつ。そこでだ、君達には、四天王の討伐を頼みたい！」

仁志「いいか皆。これはテストだ！」

コウト「…………へ？」

本郷校長の後に田高仁志はこれをテストだと証していた。
要するに筆記試験ではなく実技試験の様だ。

智樹「…………つまり、四天王を倒す。そのことがテストだと…………」

本郷「そうだが？ 何か不満か？」

それを聞いたネプテューヌを初めとした実技が出来ない連中は沸き上がり、歓喜し、急いで装備を整える。

ネプテューヌ「行くよーコウト、ネプギアーー！ それとあいちゃん
こんばーー！」

コウト「おい、ちょっと待て、なんか違くないか？ っていうか、俺今までテスト勉強したのに水の泡じゃねえかーー！」

ネプギア「…………取り合えず、頑張りましょーコウトさん」

「ウト」…………「ウン」

本郷「行くぞ、みんな！」

テスト苦手な連中「「「ハイ！」」」

トリック・ザ・ハードの進行方向の先には、ブランを筆頭にロムとラム、ランスロットにデバイスである攻撃自由ストライクリーダムを展開したキラと無限の正義ファイナリスト・ジャスティスを開いたアスランが居た。

後方支援には攻撃紅ストライカージュ+I・W・S・Pを展開したカガリとステージ上でマイクを手にしたラクスが歌つている。

ブラン「……徹底的にぶつぶす！」

ブランはプロセッサユニットを開き、ホワイトハートに変身する。

ロム「……ラムちゃん、いくよー？」

ラム「おっけー！」

ロムとラムもプロセッサユニットを開き、ホワイトシスターに変身する。

ジャッジ・ザ・ハードの進軍をベール率いる部隊が待ち構えていた。メンバーはベールを中心に、アスマ、ワタル、シンジとカズマ、5pb、そして新大陸発見部の主な四人である智樹、そはら、美香子そして英四郎だ。

グリーンハート「行きますわ、皆さん。アスム君とワタル君は私の援護を、残りの皆さんは好きに暴れ回っちゃって下さい」

シンジ「やつたー！さーすがお姉様！編集長よりやーわしーーー！」

5
pb
一
ボつ
……
ボクも、
ベール様に着いていくよ

カズマ「うえーいうえーい！」

リイマジキバツトーキバつて、行くぜ！がぶつ！「

ターンアップ

響鬼「行きますよ、ワタル」

キバ「分かりました、アスム」

智樹「出陣じゃああああーー！」

黒いブレイブ・ザ・ハード率いる大ショッカー部隊を任せたのは、

ノワールとユニーを筆頭にショウイチ、ソウジ、タクミ、マリオ、日本一などがすとにデバイス、デュナメス、サーラガを装着したニール、サバニアを装着したライル、ラファエルを装備したティエリア、そして青いファングと小太刀を装備したアニュードがいた。

ブラックハート「みんな、黒いブレイブはユニーが倒すわ。手を出さないで上げて」

ニール「そうだな。俺の弟子だ、なんとかなるだろ」

ブラックスター「……ブレイブ、また力を貸して！」

ニール「おっしゃ、ニール・ディランディ、デュナメス、サーラガ！ 目標を狙い撃つ！」

ライル「ライル・ティランディ、サバー・ニヤー乱れ撃つぜー！」

ティエリア「ティエリア・アーテ、ラファエル。行きます」

そして、マジック・ザ・ハードを迎撃つ、ネプテューヌとネプギアはユウトに、ピカチュウとカービィとリンク、ユウスケ、デバイスのダブルオーライザーを開いた刹那と、ハルートを開いたハレルヤとマリー、そしてハロ型ロケットランチャーを装備したフルト、そしてアイエフにコンパもいる。

ユウト「さてとねぶ子、俺達はどうでる？」

パー・ブル・ハート「まずは、刹那とネプギアが先陣を切つて。フェルトは一人の援護に回つて」

ユウト「となれば、俺とエンシントの出番は？」

パー・ブル・ハート「あいちゃんと私と一緒に、刹那とネプギアとは別にマジックを討つ！」

ユウト「なあ、アイエフ、足引っ張んなよ？」

アイエフ「それはこっちの台詞よ。カービィとピカチュウは残りの皆と一緒にいてよ」

カービィ「ほよ！」

ピカチュウ「ぴつかあ！」

カービィとピカチュウは任せてくれと、言わんばかりに胸を張る。それを見たパー・ブル・ハートは号令をかけた。

パー・ブル・ハート「行くわよ、皆！」

パー・ブル・シスター「マルチ・フル・ビームランチャー、オーバードライブ！」

刹那「刹那・F・セイエイ、大ショッカーの世界侵略行為を紛争幫助と断定。ダブルオーライザー、目標を駆逐する。トランザム！！」

パー・ブル・ハートの号令で、パー・ブル・シスターと刹那が切り込み隊長

の如く猛進。スライヌやシカベーダーを叩き斬る。

刹那「トランザムライザー、ライツザアアアアアアアア！」

刹那がトランザムライザー状態で繰り出すライザーソードがシュジョンコウキやコウケイキの大群を切り裂く。

その後、ファインアルカッター、ボルテッカー、スラッシュウェーブ等による衝撃が感じられる。

やがてユウト達三人は、パークルシスター達とは別の方向からマジックを狙う。ここでは流石のセクハラエンションも本気モードだ。

ユウト「行くぜ、ハンショント！」

HンシHントくうむ。We gods of fire , it's power to give Pearl my ally!（炎の神々よ、私の盟友にその力を渡し賜え！）>

ユウト「必殺、炎神轟斬刃！！！」

エンシント・バトルモードを勢いよく振り下ろし、龍の頭部を模した炎がマジックの背後を狙う。が、それをキラーマシーンが盾になることで防がれた。

マジック・ザ・ハード「……不意打ちとは、汚い手を使つものだな」

ユウト「てか、なんでまた復活してんだよ

アイエフ「あんた、大ショックナーに組するなんて、何処まで落ちぶれてんの？」

パー・ブル・ハート「徹底的に貴女を倒すだけだけぞ」

マジック・ザ・ハード「……総ては犯罪神であるマジエコンヌ様の為に」

ユウト「ちい……何を言つても、無駄みてーだな……俺はキラーマシーンをやる。いくら相手が敵でも犯罪神四天王でも、女を殺るなんて趣味じゃねえよ」

パー・ブル・ハート「つ、あなた本気?！」

キラーマシーンを一人で相手するというユウトの行いを、パー・ブル・ハートは驚愕し問い質す。しかしユウトはエンシェント・バトルモードを構えたまま、キラーマシーンだけを見てパー・ブル・ハートに応えた。

ユウト「……俺だつてな、ヒーローになりたい時だつてあるんだ。それに、親父の死の真相だつて知りたい。だから目の前の障害や壁はぶつ壊す!!」

エンシェントくでは仕掛けんぞ! My name is Ancient Dragon, swear that the murderer weapon to destroy the killer machine or put its name! (我が名はエンシェント・ドラゴン、その名に置いてかの殺戮兵器・キラーマシーンを破壊することを誓う!) >

ユウト「充填完了! いくぜえ、 轟熱・龍斬刀」

振り下ろしたエンシェント・バトルモードから炎の渦が現れ、それ

がキラーマシーンに巻き付く。そして身動きが取れなくなつたキラーマシーンを頭から切り下ろした。

結果、キラーマシーンは上下にズレ、爆発した。

歓喜するコウトだが、詰めが甘かつた。キラーマシーンの残骸から機械のコードの様な物が、コウトとエンション・バトルモードを拘束。電流を流す。

コウト「あ、あああ！！！」

エンショント・コウト、しまつ

ダメージが蓄積されすぎたか、エンショントはセーブモードに戻ってしまった。エンショント・セーブモードはコウトの首から落ちてしまい、コウトは丸腰になってしまった。

コウト「第一話で、こんなかよおおおおおおおおー！！！」

苦痛の叫びを上げたコウト。だが、キラーマシーンの残骸から伸びたコードをGN粒子を纏つたミサイルが当たり、コウトの拘束を解いた。アレルヤとマリーのおかげだ。

アレルヤ「コウトー！」

コウト「ぐつ、……すまねえ、アレルヤ。助かつたぜ」

パープルハート「コウト……」

マジック・ザ・ハーデ「…………よそ見をしている場合か？」

パープルハート「ぬうつ…………」

アレルヤとマリーに救われたユウトを見て、安堵するパー・ブルハート。だが、マジックはその隙を狙う。辛うじてそれを防ぐが、若干押し負けていた。

以前より強くなっている。腕を交えて始めてマジックの力量が伺えた。下手すれば負けるどころじゃ済まされない。額の汗も気にせず、パー・ブルハートは仕掛けた。自分の最高の一降りを。

パー・ブルハート「はああああ！…」

マジック・ザ・ハード「効かぬ。既に貴様の動きは読んでいる」

パー・ブルハート「そうね。でも、動きを読めるのは、私だけ見たいね…」

マジック・ザ・ハード「…何を言つて…ぐつ！」

ハレルヤ「ハツ！後ろががら空きだぜえええ…！」

ソーマ「油断大敵だ。犯罪神四天王よ」

もう一つの人格を呼び出すことで、超兵としての能力を一時的に上げたハレルヤとソーマ。

加えて、彼の攻撃もたやすく受けた結果となつた。

刹那「ここは俺の距離だ！」

パー・ブルシスター「ここは私の距離です！」

刹那とパー・ブルシスターの斬撃が、マジックの背後を捉え、ダメー

ジを『えた。

軽くだが呻くマジック。苦悶の表情をする。

刹那「犯罪神四天王でも万能では無いようだな

ユウト「……の、ようだな。しかし、よくここまで来れたな」

刹那「雑魚はとっくに片付けた。先程、ロジクオン達から、トリックは蒸発。ジャッジとブラックブレイブは捕獲した」

ユウト「……だとよ。どうする？ 残念な美人さん」

詰め。それだけがマジックの脳裏にちらついた。甘かつた、甘かつた、詰めが甘かつたのだ。

マジックの周囲を、ユウト達が囲む。

アイエフ「チェックメイトよ。降参したら？」

アイエフが降参を提案するも、マジックは黙秘し自分の意を表さなかつた。

ユウト「ま、出来れば俺はアンタを殺したくない。カービィ」

カービィ「ほよよ」

ユウトに呼ばれたカービィは差し出したユウトの腕にぶら下がり、大きく口を開けた。

ユウト「」の桃色ブラックホールに呑まれたく無ければ、俺達について来い！」

ネプギア「えッ！？何言つてるんですか、コウトさん…。」

コウト「俺、思うんだよな

マジックを仲間に入れようとするコウトの行いをネプギアを始めとした少しまともな者は驚愕し、代表してネプギアがコウトに反論するが、コウトは物思いに、喋りだした。

コウト「アンタは元々、破滅を望んでいたんだろ？終末も。そして自分自身破滅を望んだ。だがアンタは、現にこうして、俺達の世の前に存在している」

マジック・ザ・ハーダ「…………その通りだ。だが、私達がいくら復活しようとも、犯罪神様は復活しない。怨念、嫉妬、歎き、哀しみ、怒り、様々な負の感情が貯まる」とことで、犯罪神様は復活する

「め」

マジック・ザ・ハーダ「…………何？」

コウト「…………そつか。じゃあ、アンタはどうしたい？」

マジック・ザ・ハーダ「…………何？」

マジック・ザ・ハーダ「…………何かがあるのか？今更だけど。犯罪神の復活は、多分無理かもしかねえけど、それ以外で何か捜そうぜ。自分がやりたい何かを

マジックに手を差し延べたコウトは、ハンシェント・セーブモードを懷にします。

多少戸惑つマジックだが、その体に異変が起きていた。武装は砂になり、サラサラと消え去った。もう戦つ」とは出来ない。

コウト「 で？」

士「新しい教師の紹介だ」

武零武「正義の心得を説こうでは無いか！…事務員の武零武！」

事務員の武零武の恰好はどうぞの恋次の様な黒装束。

制裁「ひやーはははー…全 足 前 進DA！事務員の制裁」

同じく事務員の制裁の恰好はどうぞの海馬社長と同じ服。

摩十狗「事務員の摩十狗だ」

同じく事務員の摩十狗の恰好は元の体に黒いリクルートスーツを着こなしていた。

士「今日からこの三人は、内の学園の事務員となつた。本郷校長の許可も得ている。それじゃ、授業開始するぞ」

コウト「 何で超弩級超絶学園の事務員になつちやうかな？」

エンシェント「平和な事は、よき事かな」

最後にまともな事を言つたエンシェントだった。

続
<

うえい2 「俺の平和な日常を返せHHHHH---!」 by智樹（後書き）

次回

ユウスケ「俺、こんな事は本当はしたくないんだ」

智樹「俺は飛べる！」

次回

うえい3 「実験には犠牲が付き物だ」 by 英四郎

ついでに「実験には犠牲が付き物だ」 b y 英四郎（前書き）

第三話です

キラ「漢の喧嘩は、命懸けえ……」

今回英四郎の悪戯（実験）祭

ついでに「実験には犠牲が付き物だ」 b y 英四郎

英四郎「おはよう、もしくはこんばんわ諸君。俺は守形英四郎。コロンブスが活躍した大航海時代、当時は胡椒等の香辛料は金銀と同じ価値があつたそうだ。そしてその当時は、天動説が唱えられた……というが、智樹」

智樹「あ、はい」

英四郎「その天動説について、かい摘まんでも構わないから答えろ」突然喋りだした英四郎は、たまたま近くに居た工口本を読んでいた智樹に答えを求めた。指名された智樹は微妙な頭脳を回転させ、答えを述べた。

智樹「確かに……地球は平地で動いていない、動いているのは天体だけ、そして世界には果てがあつてそこには滝が流れている……でしたっけ?」

ユウスケ「すげえよ智樹! 合ってる合ってる!」

英四郎「ユウスケの言つ通り正解だ、智樹。当時の人間は天動説を信じていた。しかし、かの有名なガリレオ・ガリレイは地動説を唱え、天体は太陽を中心に回転していると発表したが、当時の王政はこれを批判。ガリレオに火焙りの刑を言い渡す。が、ガリレオは渋々地動説を諦め、火焙りは免れた」

美香子「あら……残念ねえ、火焙り、出来なくて」

キラ「会長ーあんた怖いですってーー！」

リンク「……えげつない」

そはら「……コペルークスって人も地動説を考えてなかつたつけ、トモちゃん知つてた？」

智樹「あー…………大体は」

どうやら智樹は知らないらしく、汗を垂らしていた。
しかし、その場にいたユウトだけはプルプルと振るえ、やがて爆発した。

ユウト「朝っぱらから人の家で新大陸発見部の活動するか普通！！！
つていうか、くつろぎ過ぎだ！！！」

ユウトの実家の居間で、部活動する新大陸発見部。

彼等　　主に英四郎と美香子だが　　を追い出し、ユウトは神経を荒げ、二人に言った。

ユウト「大体、あんたがユウスケをハンググライダーで飛ばしたから活動停止になんたんだろ（うえいー参照）ーだからって学校じや出来ねえからって、俺の家で活動すんじゃねーよーーあと智樹真昼間からエロ本読むな、特に女子の近くでーー！」

ユウスケ「ユウト、どひどひ」

リンク「つていうか、既に逃げてるよ、あの二人……」

ユウスケがユウトを宥めている間に、既に英四郎と美香子に何故か

智樹とそはらも消えていた。恐らくは一人に連れ去られたのだろう。そこで、何故かユウトは一つ違和感を感じていた。それは、自分の首に下げていたはずのエンショントがないことだ。するとユウスケがばつが悪い口調で言つた。

ユウスケ「実を言つとさ、俺がここに来た時から智樹の首に……」

ユウト「はあつ！？……なんてこいつた、変態同士手を組みやがつた……」

リンク「……どんまい」

台風一過が過ぎた後の様な雰囲気を醸し出すユウト家に、またも騒動の種が舞い込んできた。

どたばたと現れたのは紫髪と茶髪の少女二人だった。

ネプテューヌ「ユウトーー助けてーー死んじゃうーーー！」

アイエフ「それは何度も聞いた！仕事サボる度にそつ言つても無駄よ。イストワール様も困ってるんだから」

ネプテューヌ「ねー、ユウトー、あいちゃんがいーじーめーるー！」

「！」

ユウト「あー、……はいはい。昨日買ったケーキが冷蔵庫の中にあつたから、それ食え、そして仕事しろ」

ユウトに言われたネプテューヌはユウト家の冷蔵庫へ突っ走った。それを見たアイエフは、何を疑問に思ったのか、ユウトに問うた。

アイエフ「どうしたのコウト。やけに落ち着いているけど」

コウト「いや、その……」

ユウスケ「実は、本人の許可無しにかくかくしかじか^{ハカタ}」

アイエフ「まるまるつまつま。あー、やつちやつたみたいね、あの二人」

ユウスケ「俺、あの二人を止めに行つてくるよ」

リンク「いつてらー」

がららと引き戸を開けたユウスケは止めておいたトライショイサー2000に跨がり、去つて行つた。

ユウスケ「俺、こんな事は本当はしたく無いんだ」

ユウスケの右腕には、若干引き攣つた笑顔をしているユニーが抱き着いていた。

何故ユウスケがこんな事をしているのか、原因は英四郎にあった。

英四郎「あの双子は一体何をしている?」

ユウスケとユニーに田もくれず、田先のティランディ兄弟に視線を向けていた。

どうやらビーチがユニーの師匠か決めている様子だ。デバイスを装着して。

ニール「…………今なんつった?」

ライル「だあーから、ユニーは俺の弟子だ! ユウスケ落下事件の時にユウトから聞いた! 一人の弟子に師匠は一人いらん!…」「

それを見ていた英四郎は、影で待機していたユウスケと、合図を送った。

これはく実験1、ディラン・ディ兄弟の前でユニーがユウスケと並んで歩いた際の「一人の対応」を実行するためだ。

ぎこちない足取りで二人の近くを通る。それだけだ。言葉はいらぬ。それだけで、ディラン・ディ兄弟を気付かせる事に成功。後は、アニユースケが出るまで固まつたディラン・ディ兄弟だった。

ノワール「ちょっと…何このオチ無し…! 誰得なのよ!」

虚しく響くノワールのツッコミは、今宵もキレがいいようだ。もつとも、ユウスケとユニーはどうすればいいのか、分からぬ様だ。

智樹「次は俺か! 俺なのか?！」

実験台という名の犠牲となつた桜井智樹。彼は今、手作りの鳥の翼に派手な装飾を付けていた。

何故か合流したアスマとワタルに囲み立たれ智樹を美香子は力

モニールの紅茶を飲みながら観賞していた。

英四郎「…………時間だ」

英四郎が言つと、とてつもない程の追い風が吹いた。そして、いつの間にか智樹は腹を括り、言つた。

智樹「俺は 飛べる！」

その後救急車のサイレンが鳴り響いたのも、言つまでもない。

英四郎が次のターゲットに選んだのは、天堂ソウジと将棋を対局している芦河ショウイチだ。

今の所お互い50勝50敗。現在101局目でソウジが一歩リードしている。

ソウジ「待つたは無しだぞ、ショウイチ」

ショウイチ「つるせー！」

それを影で英四郎はネプギアに頼んで作った変声メガホンを使用し、
実験3、士が以前ショウイチに向けて言つた言葉をもう一度本人
に言つとどうなるかを実行する。もはやここまで来れば悪戯にな
つてしまつていてるが……英四郎にとつては何か大切なデータの採取
の為だろ？。

早速実践する英四郎だった。

「芦河さん！ 芦河ショウイチさん！ 天堂ソウジさんにぼろ負けしている芦河ショウイチさん！ 」

ショウイチ「俺を呼ぶなあああああ！」

その後、土は英四郎の濡れ衣によつてショウイチから絶滅タイムを受けたのだった。

「あんたも暇ねえ。悪戯して何が楽しいの?」

呆れている二ンフに言われた英四郎は、彼女に背中を向け、レポートを纏めていた。

英四郎「今の世の中笑いと笑顔という物が必要だ。以前マジエコンが流通していた際、人々は本当の笑いを見失っていた」

「ソーナ、『ゴダイとオノテラの守りたい笑顔つて奴とどう違うの?』」

英四郎「さあな。あの二人が守る笑顔と言つのは、人を幸福にして
くれる。だが、マジエコンを入手した人々の笑いや笑顔は……
尤も、笑わない俺では分からぬがな」

二ンフ「強いて言えば、本当に幸福じゃないってこと？」マジエコン
使つてる人の笑顔つて

英四郎「………… わあな」

それだけ返した英四郎は一度も「ソシフ」に振り返らなかつた。

智樹「くそー………… ジんなことひで…… ジんなことひで…………」

キラ「その前によく生きてたね、あの高さから落ちても」

今智樹とキラはプラネテコースにある智樹の住んでるアパートの部屋に居た。

因みに、隣の部屋がそばうだ。

智樹「にしても、守形先輩は一体何がしたかったんだ?あれからコウスケもコニーもおかしくなつたし」

キラ「それもそうだけど、Hンショントは?智樹が首に下げるの
じゃ無いの」

キラは智樹にHンショントの所在について問い合わせ。しかし返ってきた答えは随分素つ気ないものだつた。

智樹「?それならコウスケの家のポストの中に……いた……け……ど……」

沈黙。しばしの沈黙。そして……

キラ&智樹「「ま、こいか」」

その頃、コウト宅では帰り際アイエフがエンシントを発見し、エンシントは始終「置いてかれた……置いてかれた……」と呟いていたそうだ。

続く

ついでに「実験には犠牲が付き物だ」 b y 英四郎（後書き）

次回

ラム「ランスロットが女の子に?...!」

「Iの姿はランスロット改め、藍だ」

日本一「ヒーロー見参!」

次回

ついでに「ランスロットが女の子になつた?...!」 b y キラ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3966x/>

超弩級超絶学園

2011年11月27日10時45分発行